

## ミネルヴァの鼻は夕暮れに飛び立つ

～学校だより「私の心配」（平成15年度）～

2019.05 後藤 忠

女神ミネルヴァは女神アテナの権能を備えた知恵と学問の神。その使いとされる鼻は沈思黙考の哲学者の象徴です。

時は古代ギリシャ、その繁栄はまさに絶頂期、しかし、その精神は黄昏期を迎えていた頃、三哲人（ソクラテス、プラトン、アリストテレス）が現れました。その出現をヘーゲルは「ミネルヴァの鼻は夕暮れに飛び立つ」と譬えたのです。

いつの世にあっても人間が求めるべき価値は、真であり、善であり、美であり、聖であるはずで。ところが、今、それが非常に怪しくなっている、つまり大人の価値観やモラル、生活の意識が混乱し、低下していることに啞然とし、戸惑うばかりです。

- 集団や他の人の都合を考えず、もっぱら個人の都合や利益を優先させる。
- 他者への責任転嫁など、責任感が極端に欠如している。
- 他者や集団への貢献を嫌う反面、他者や集団への過度の依存が強い。
- 我慢や辛抱ができない、人の失敗や過ちが許せないなど、忍耐力と寛容さに欠ける。
- さ細なことに対する敬意や感謝が払えない。
- 人間が信じられず、他者に敵愾心をもつ。

教育は一人一人の子供たちを他者と共

によりよく生きる人間へと育てる営みです。しかし、教育の問題はこのように山積し、深刻です。

本校は特別な権能や権限が与えられている特別な小学校ではありません。他の小学校と同様、ごく普通の公立小学校です。

この学校には発展途上中の可能性に満ちた子供たちと、未完ながら教育への情熱に燃える善良で真面目な教職員がいて、両者が魂と魂とをぶつけ合いながら、よりよく生きる人間になるために、日々汗まみれ泥まみれで切磋琢磨している学校です。

子供の生きる力の基盤は家庭が築き、その基盤の上に学校があります。

人間としての誇りをもって自己の向上に努める力をつけなければなりません。

自己中心性は少しずつ広げてやらなければなりません。

困難への辛抱強さや秩序への忍耐力はしっかり身に付けなければなりません。

自分のことより人のことを大事にしなければならぬことがあることも教えなければなりません。

今まさに、ミネルヴァの鼻が飛び立つ時ではないでしょうか。

「知恵ある者は知恵を出せ、知恵なき者は汗を出せ、汗なき者は去れ。」